

(国語科)

**言語活動の充実を通して、自ら学び、自ら考える力を育む  
―読んだことを書いて交流し、考えを深める国語科の授業づくり―**

大阪市立高倉小学校

### 1. 研究主題設定の理由

本校では、学校教育目標を「どの子ども伸びる どの子ども伸ばす」と設定し、知（自ら学び、自ら考え、粘り強く課題に取り組む子）、徳（自他の違いを認め合い、ともに伸びようとする子）、体（自らの健康や体力に関心をもたくましく生きる子）をめざす子ども像として、日々の教育活動を展開している。

令和２年度に「子どもが意欲的に取り組む深い学びを求めて」という研究主題を設定し、教科にこだわらず研究活動を行った。いろいろな教科を扱うなかで、本校の児童は「文章を正しく読み取る力」や「読み取ったことを、表現する力（考えたことを書く力）」が弱いことが分かった。

そこで、「読む力」と「表現力」を身に付けさせるために、研究主題を「言語活動の充実を通して、自ら学び、自ら考える力を育む～読んだことを書いて交流し、考えを深める国語科の授業づくり～」と設定し、国語科の物語文で研究を進めた。

### 2. 研究の趣旨

登場人物の会話や様子から心情を読み取ったり、表現の工夫を読み取ったりする力を身に付けさせるべく、これに適した言語活動を工夫する。また、「自分の考えを直接相手に分かりやすく話す」「相手の考えを聞いて、自分の考えとの共通点や相違点を見つけ、考えを深める」などの交流活動を通して「表現力」を養っていく。そうすることで、読む力を深めることが出来る考える。

### 3. 研究の概要

研究主題にせまるため、研究の視点を以下のように設定した。

**視点①読む力を付けるための言語活動の工夫**

- 子どもにどのような読む力を付けたいかを明確にするために、児童の実態把握をする。
- 読む力を付けるのにふさわしい言語活動を設定する。
- 語彙力を向上させるための取り組みを行う。
- 指導力を向上させるための教員研修を実施する。

**視点② 交流の仕方を工夫した場を設定する。**

- 交流する観点を絞った発問の工夫をする。
- 交流前に自分の考えを明確にもたせるようにする。
- 実態に応じて、交流の形態（ペア、トリオ、グループ）を工夫する。
- 自分の考えと比べて話し手の考えを聞くよう指導する。
- 教科横断的に交流活動を取り入れ、児童の交流の力を育成する。

#### 4. 研究の成果と今後の課題

##### (1) 研究の成果

○児童の実態から付けたい力を明確にし、それに適した言語活動を工夫して取り組むことができた。そうすることで、目的意識を持って主体的に学ぶ姿勢が見られた。

○叙述にこだわって読むことで、読みを深めることができた。自分の考えの根拠を、叙述を基にまとめる力が付いた。

○話し合う形態を工夫することで、お互いの考えを交流することができた。

○交流する際、話型を提示したり、ハンドサインを活用したりすることで、活発な話し合いができ、考えに広がりや深まりが見られた。

##### (2) 今後の課題

○系統立てた付けたい力をより精選し、それに有効な言語活動につい、今後も研究を重ねていく。

○自分の考えを伝えるだけで終わってしまう交流もあるので、継続的に指導していく。

○より活発な意見交流になるような、焦点を絞った発問の工夫が必要である。